

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190200667		
法人名	社会福祉法人 三草会		
事業所名	もえれのお家屯田 みやげ館・よしお館 (みやげ館)		
所在地	札幌市北区屯田7条5丁目2番20号		
自己評価作成日	令和3年9月30日	評価結果市町村受理日	令和3年11月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvsoyoCd=0190200667-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

もえれのお家屯田みやげ館・よしお館は、共用空間は強い衝撃を緩和するクッションフロアを使用、対面キッチン、電球色のライトや木を基調とした温かみを出し、見晴らしの良い大きな窓を使用している。
近隣に小学校、中学校、高校があり生徒たちの通学路に位置し、日常的に楽しげな児童たちの声が聞こえます。中規模の商業施設も多く立ち並ぶ活気のある地域にあり、公園や神社などのお祭り等地域活動が盛んで交流の機会に恵まれています。
コロナ禍において感染対策を重視し、受診以外の外出の自粛、外部、御家族の面会制限などを対応を行っています。御家族との面会はガラス越しの面会、ZOOM、LINEなどのオンラインでの環境を整え、普段の様子を御家族へ写真などでお伝えし少しでも安心して頂き、信頼関係の構築に努めています。
四季の行事、季節の飾り付けを年間通し行う等、思うように外出が出来ない中でも生活に彩を添えられるように心掛けています。
また、医療系専門の職員はいないながらも専門医、往診医の協力と連携により、家族の意向も活かせるよう、段階的な話し合いを持って方針に合わせたターミナルケアにも取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームもえれのお家屯田」は、同法人が運営するデイサービスを併設した2ユニットのグループホームである。札幌市北部の静かな住宅地に立地し、バス停にも近く交通の利便性が良い事業所である。対面式のキッチンを中心に居間や居室が配置された広々とした造りで、大きな窓から明るい光が注いでいる。利用者が落ち着いて過ごせるようにさり気なく装飾を施すなど工夫した環境整備をしている。感染症の流行により外出が難しくなったため、タブレット端末で利用者の馴染みの場所の映像を見ながら思い出話につなげるなど、新たな取り組みを行っている。食事面では、利用者の好みに合わせて柔軟に主食を変更したり、バイキングやおやつカフェを開催し外食できない中でも食事が楽しめるように工夫している。法人研修や内部研修を計画的に行いながら管理者の家族目線での気付きを大切に職員育成に熱心に取り組む、安定した職員で質の高いケアを提供している。ケアマネジメントの面では、介護計画に職員の対応を詳細に記入し、利用者一人ひとりの思いに寄り添いながら本人の生活リズムを大切に全職員で統一したケアを行っている。家族が直接面会ができない環境でも安心してできるように利用者の様子を写真や手紙で伝えており、管理者や職員の細やかな対応は家族の安心と信頼感につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(みやけ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念はいつでも確認出来るようスタッフルームに掲げ、日々その人らしさとは何かを念頭に置き、理念に沿った支援が出来るよう心掛けている	地域密着型サービスを意識した法人共通の理念を事業所内の要所に掲示し、職員採用時に説明している。管理者は職員がケアに戸惑った時に理念を意識しながらアドバイスをを行い、適切なケアの方向性を示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入をしているが、コロナ禍に伴い今年度は交流の機会は自粛している。継続した関係性を保てるよう、出勤時やゴミ捨ての際など挨拶を行うよう心掛けている。またお便りなどで近所の小学校、中学校との交流の機会は継続されている	感染症流行前は、地区センターの文化祭や小学校の学芸会見学、中学生の職業体験受け入れを行っていた。今年も職員や利用者宛に中学生から手紙が届くなど、交流が継続されている。敷地内の散歩で近隣住民と挨拶することもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年受け入れていた地域の中学生の職業体験は行えていない。コロナ禍に伴い地域貢献の場は無かったが、入居希望の施設見学時には感染対策のもと見学範囲縮小等の対応をし可能な範囲での対応をしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍に伴い書面での運営推進会議の開催となったが、併用しているデイサービスと合同で行い事業所での日々の様子、活動状況など面会制限のある中で少しでも様子がわかるよう定期的に写真の発送を行ってきた。意見を伺いサービス向上に努めている	感染症流行前は、成年後見人制度や介護食の味見体験会など議題を工夫して会議を開催している。現在は書面会議を開催し、議事録と一緒に家族や地域役員にアンケートを同封して意見を収集している。現在の議事録は、主に事業所の現状報告が中心になっている。	感染症流行前の議題のように、家族や地域住民に役立つ情報資料を議事録と一緒に送付するなど、工夫した取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方の受け入れを行っている。事故発生時の報告やコロナウイルス関連の報告、PCR検査時等連絡をとっている	書類は郵送で提出しているが、介護保険の更新申請で役所を訪問したり電話で連絡を取り合い、常に担当者と相談できる関係を築いている。生活保護受給者のおむつサービスについてアドバイスを受けたこともある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で委員会を立ち上げ、構成員は3ヵ月毎オンラインでの委員会へ参加、他職員へ伝達、議事録には確認サインをし身体拘束について理解を深め、身体拘束にあたるようなケアを行っていないか意識を持つように心掛けている	禁止の対象となる具体的な行為を記載した指針を作成し、法人研修や内部研修で定期的に身体拘束について学んでいる。怪我や事故がおきた場合は拘束に当たる行為がなかったか職員間で再確認し、適切なケアにつなげている。玄関の鍵は主に夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時の研修の実施の他、事業所内での勉強会、法人内の研修会、委員会等を通し意識しケアをするよう努めている。日々のケアで発見した身体の変色など些細な事でも必ず記録に残し周知を徹底し防止に努めている。職員間でも声掛けについて常に意識し支援している		

グループホームもえれのお家 屯田

自己評価	外部評価	項目	自己評価(みやげ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を実際に利用している入居者もあり、管理者が主となり、やり取りを行っており、権利擁護を学ぶ機会はあるが、職員全体で学び理解する機会が必要である		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書、重要事項説明書の説明を行うとともに、入居後に予測される状態を踏まえ十分に説明する時間を設けている。退去時には、その時の状況に応じ段階的な話し合いを重ね理解、納得をして頂けるよう努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍に伴い、面会制限もあり行事などへの家族参加機会はなかったが、電話や運営推進会議等で家族に意見要望を伺い運営に反映出来るよう機会を設けている	感染症流行時は直接面会を実施していないため、管理者が家族に電話をした時に意見や要望を聞き取りタブレット端末に個別に記録している。利用者の写真に手紙やコメントを添えて、定期的に家族に送っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員面談の実施の他、いつでも意見、提案を伝えやすいような関係性を築き、反映出来るよう努めている	管理者は普段から職員と話をすることも多く、日常業務やレクリエーションなどに職員の意見や提案を活かしている。職員は困った時や迷った時にも気軽に相談でき、話しやすい職場環境であると感じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の受講料負担や外部研修の受講費用の助成があり、職員の目標設定をしよう向上心を持ち業務に向き合えるようにし、それぞれの家庭事情などに配慮し働きやすい環境作り、条件を設備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりに、どういった部分を活かすし伸ばすか、またどういった部分が必要なのか把握し職員ひとり一人の力量に合わせた研修の機会を設け、適切な助言、個々に合わせた指導を行えるよう努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍において、事業所以外の同業者と交流する機会はなかった。法人内の複数の事業所とオンライン研修や会議を通しサービス向上に取り組んでいけるよう意見交換を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(みやげ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントや利用中のサービス事業所との連携の中で本人の状態や困っている事など把握し利用後も情報をもとに安心、信頼して頂ける関係性を築いてけるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から頂いた内容は職員間で共有できるように、記録に残している。職員の主観では無く、ご家族の声に耳を傾け、些細な事でも丁寧に対応し良好な関係性を築いていけるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	環境の変化による本人の影響もあると考え、初期の段階である程度見極め、実際に入居後の様子を見ながらご家族と情報交換を行いながら今、必要な支援を行えるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である事を常に意識し、一緒に過ごす中で親しみを持てるような雰囲気作りにも努め、時には利用者の力をお借りしながら感謝の言葉を忘れないよう心掛けている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍に伴い面会制限がある中であっても電話や玄関先での来訪時に本人の近況報告をし、本人と家族の間に入り意向を伺いながら関係性を大切にしていけるよう努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご夫婦で入居されている方がおり、ご夫婦で過ごす時間を大切にしている。コロナ禍もあり外出自粛もあり馴染みの場へ行く機会はなかったが今後は馴染みの場などいけるよう努めて行きたいと考えている	感染症流行前は、利用者が住んでいた家や馴染みの場所にドライブで出かけていた。現在は感染症の流行で外出が難しいため、タブレット端末を利用して利用者の馴染みの場所を映像で見ながら思い出話をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、支える合える関係性の構築の支援を行い、時には職員が中に入り適度な距離感を持ちながら良好な関係が継続出来るよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(みやけ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も相談の他、手紙や電話での連絡を頂ける家族もあり、利用時と変わらない関係性を大切にしていきたいと思ひ支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望を表現できな方も多く、全ての意向に応じてとは言えないがご家族より情報を得ながら表情や反応を伺い、その人の視点になり支援するよう心掛けている	普段の会話や表情、仕草、関わり方の経験から思いや意向を把握している。新しいアセスメントシートの書式に興味や嗜好の項目を追加し、更に具体的に記入していきたいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に得た情報をもとに本人の話している内容やご家族からの情報も交え把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の支援の中で変化はないか把握に努め、生活記録や関わりを通し、変化があった際は職員間で検討し適切な支援に繋げていけるよう努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスにて、プランの評価やプラン内容の検討を行い、医療機関や他関係機関からの助言も踏まえながら現状に即した内容でサービスが行えるよう作成をしている	利用者担当職員を中心に具体的な援助内容に沿って評価を行い、3か月ごとに介護計画を作成している。日々の記録は介護計画の重要項目に沿って変化や課題があればタブレット端末に記録し、更新計画に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	他者が読んでも状況が分かる記録内容を心掛け、気付いた事は申し送りなどに記録を残し情報を共有しカンファレンスや申し送り時に職員間で検討を行い計画書へ反映出来るよう努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状態に合わせた食事の提供や、その時に応じ出来る限り柔軟な対応出来るよう心掛けている。入院、退院時は医療機関や理学療法士との連携に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍に伴い制限も多いが、近隣の商業施設の利用や訪問理美容、おむつサービス、介護タクシーの利用など、必要に応じ利用している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全ての入居者が同じ医師による訪問診療を受けている。体調の変化があった際など緊急時は24時間連絡できる体制である。ご家族からの信頼も厚い。往診医と相談をしながら本人、家族の希望に応じ必要に応じ他の医療機関へ繋げている	往診以外の専門医は、本人のかかりつけ医や地域の病院を利用している。感染症対策として現在は事業所で受診支援を行っているが、体調変化時や薬が変更になる時は家族も同行している。受診記録はタブレット端末で管理している。	

グループホームもえれのお家 屯田

自己評価	外部評価	項目	自己評価(みやげ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員はケアの中で気付いた事を定期的な訪問看護にて報告をし必要時には、医師に繋げて頂けるよう連携が取れている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、グループホームでの生活の様子を医療機関へ情報提供し、病状の定期的な確認をし可能な限り早期に退院出来るよう相談に努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要なタイミングを見極め、グループホームで出来る事、出来ない事など話し合いご家族、医療機関と同じ方向で支援できるよう職員もチームとして管理者を中心にご家族の意向を伺い、看取りに関する同意書を交わし支援に取り組んでいる	利用開始時に「重度化した場合の対応に係る指針」に沿って事業所の対応を説明している。体調変化に応じて医師や家族、事業所で方針を話し合い希望に応じて看取りを行っている。毎年看取り研修を実施し、この2年間で5名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの場所の周知や実際に発生しそうな状況を事例とした勉強会などを行っている。緊急時のマニュアル、チャートを作成し急な場合でも落ち着いて対応出来るよう努めているが、定期的な訓練はコロナ禍に伴い行えていない		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍に伴い縮小した形での訓練実施となっている。BCPを用いて災害についての勉強会の実施、緊急連絡網やハザードマップの掲示をしている。自然災害に対し独自の特性に応じた具体的な訓練を行えるよう検討していきたい	運営推進会議同日に避難訓練を行っていたが、感染症の流行後は昼夜の火災を想定した自主訓練を実施している。ハザードマップを再確認し、水害時の車いす利用者の避難方法を現在検討している。地震時対応の話し合いも十分とはいえない。	水害や地震時の個別対応について話し合い、記録をマニュアルに綴るなど災害時に役立てられるような工夫を期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみを持ってただけのような関わりを大切に適度な距離感を保ち尊厳を忘れないよう定期的なカンファレンスの場で振り返る場を設けている	接遇などを学び、利用者には丁寧に話しかけ、馴れ合いにならないよう注意している。記録類はタブレット端末で行い、個人情報を適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや表出、自己決定が困難な入居者が多いが、本人の視点に立ち本人の反応をくみ取り支援できるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定ができる方を中心に可能な範囲で自由にその人のペースを大切にしながらの希望を伺う事を意識した支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大切にしながら清潔感、季節感を意識しながら本人の好み、こだわりに配慮しながら支援に努めている		

グループホームもえれのお家 屯田

自己評価	外部評価	項目	自己評価(みやけ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	台所片付けやレクレーションを通し本人の好きな物を作ったり、好みの物を提供できるよう心掛け、行事や季節感を感じていただけるよう食事を通して楽しんでいただけるような支援している	委託会社の献立を基本に食事を提供し、好みで主食をパンなどに変更している。自分用の餃子を作ったり、カフェ風気分でケーキバイキングを楽しんでいる。行事などに出前を取り寄せることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の習慣や希望に沿った提供時間、好みの温度、盛り付けの工夫をしながら必要な摂取量を確保できるよう努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科による指導を頂きながら、それぞれの状態、能力にあったケアを行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄間隔を把握しながら、可能な範囲でトイレでの排泄を目指しオムツの必要性についても職員間で検討している	座位が保持できる場合は家族とも話し合い、日中は可能な限りトイレでの排泄を支援している。数名の利用者は自力ででき、尿意を訴えられない利用者には仕草などを見逃さずトイレに誘導し、失禁が少なくなるように対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト、オリゴ糖のバナナの提供など個々に応じた対応をし、排泄周期を把握し排泄リズムが整うようトイレ誘導を行うなど取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人のタイミングや気分に合わせて入浴の間隔を把握しながら可能な範囲で柔軟に対応をしている。入浴剤を入れるなど心地よく入浴ができるよう好みに配慮したり同性介助などの対応をしている	それぞれの意向に沿い、主に午前時間帯に入浴を支援している。シャワー浴を希望する利用者もいる。その都度湯を入れ替え、2人介助もあり安全に行っている。利用者は湯船に浸かり職員との会話を楽しんで気持ちよく入っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣やその日の状態に応じ休息をして頂いている。関わり方や照明のトーンを暗くするなどの工夫を行い、夜間の入眠に繋げていけるよう環境への配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報は個人ファイルに綴り、毎日の薬セットの際に薬に関わる機会を設け変化があった際には申し送りを行い、職員全体で把握ができるようにしているが薬の効能や副作用については把握が十分とはいえない現状		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好む事、出来る事を行う能力が維持できるよう家事活動やレクレーションを通し気分転換、充実感、達成感を感じて頂けるよう支援をしている		

グループホームもえれのお家 屯田

自己評価	外部評価	項目	自己評価(みやげ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴や施設の周りを散歩は行っているがコロナ禍において自由な外出は出来ていない。ご家族の協力も得ながら今後、取り組んで行きたい	感染症の流行前は家族の参加もあり、季節の花見や施設見学、冬季にも出かけていた。現在は感染防止から家族のアンケートも参考にして敷地内の散歩や玄関先で花を眺める程度になっている。感染症の収束状況を見て外出を考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所内金庫保管をしている為、実際に所持はしていない。コロナ禍に伴い実際に使える機会は少ないが自動販売機で購入をしてもらうなど出来る範囲での支援に努めている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった際には柔軟に対応を行い、ご家族の協力も得ながら来電時、架電時に話す時間を設けご家族との大切な時間を過ごして貰えるよう配慮している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の状況に合わせてながら刺激となるものの調整を行っている。季節に合わせた館内の装飾等少しでも季節感を味わって頂きながら穏やかに過ごされて頂けるよう配慮している	回廊型廊下の壁には季節の作品が飾られ、家庭的で温かみを感じられる。居間から見えない場所にトイレがあり、プライバシーに配慮した造りになっている。居間の大きな窓からは日差しが入り、明るく落ち着いた居心地のよい雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間において、他者に影響されてしまう場合もあるが状況をみながら交流が図れ落ち着いて過ごせる活動などに取り組んで頂くなどの配慮をするよう心掛けている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談しながら個々の状態に合わせて、安全に過ごせるよう配置の工夫を行いつつ自分の部屋と認識し落ち着いて過ごせるよう装飾や配置に配慮している	居室には造り付けのクローゼットとベッドの備えがあり、馴染みの家具類や仏壇などが持ち込まれている。好きな動物のカレンダーやぬいぐるみ、チラシ折り作品、家族の写真やアルバムなどがあり、その人らしい室内となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの入りロスポットライトの設置をするなど個々の状態に合わせて環境設備を行い、必要時には理学療法士より助言をもらいながら、本人の能力を活かして過ごせるよう支援している		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190200667		
法人名	社会福祉法人 三草会		
事業所名	もえれのお家屯田 みやけ館・よしお館 (よしお館)		
所在地	札幌市北区屯田7条5丁目2番20号		
自己評価作成日	令和3年9月30日	評価結果市町村受理日	令和3年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

もえれのお家屯田みやけ館・よしお館は、共用空間は強い衝撃を緩和するクッションフロアを使用、対面キッチン、電球色のライトや木を基調とした温かみを出し、見晴らしの良い大きな窓を使用している。
近隣に小学校、中学校、高校があり生徒たちの通学路に位置し、日常的に楽しげな児童たちの声が聞こえます。中規模の商業施設も多く立ち並ぶ活気のある地域にあり、公園や神社などのお祭り等地域活動が盛んで交流の機会に恵まれています。
コロナ禍において感染対策を重視し、受診以外の外出の自粛、外部、御家族の面会制限などを対応を行っています。御家族との面会はガラス越しの面会、ZOOM、LINEなどのオンラインでの環境を整え、普段の様子を御家族へ写真などでお伝えし少しでも安心して頂き、信頼関係の構築に努めています。
四季の行事、季節の飾り付けを年間通し行う等、思うように外出が出来ない中でも生活に彩を添えられるように心掛けています。
また、医療系専門の職員はいないながらも専門医、往診医の協力と連携により、家族の意向も活かせるよう、段階的な話し合いを持って方針に合わせたターミナルケアにも取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigvsoyCd=0190200667-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年10月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(よしお館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念はいつでも確認できるようスタッフルームに掲示している。理解、意識の向上に努め実践に繋がるよう努めている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防のため、町内会のイベントの中止、町内清掃などの参加を控えており交流は出来ていない		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染予防のため、毎年行っていた地域の中学生の職業体験など中止となり、今年度は地域貢献は行えていない状況		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防のため、昨年度から運営推進会議は中止となっている。そのため、文書やアンケートにて町内会、ご家族へ発信している。アンケートなど頂いている。しかし、運営推進会議の内容が職員に周知できていないことがみられている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	令和3年1月に当事業所でコロナウイルス陽性者が出て、その間連絡をとっていたり、その他、事故報告書、抗原定性検査など対応している		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回の三草会全グループホームで身体的拘束適正化委員会を開催し、身体拘束を行わないケアを心掛けて対応している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	9月高齢者虐待研修に2名オンデマンドで参加。参加したスタッフは研修内容を伝達講習し虐待防止に努めている		

グループホームもえれのお家 屯田

自己評価	外部評価	項目	自己評価(よしお館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者、今後検討が必要な入居者もいる。職員の中には制度の理解ができていない者もいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や介護報酬改定など利用者・ご家族に説明を行い、場合によっては同意書をいただいている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家屋と面会できないため入居者が、購入の要望などの際はご家族に繋げ対応している。しかし、コロナ禍のため、外部に表出できない現状		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を実施している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	過半数代表者を選出し就業規則、労働条件に関する話し合いをもうけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者がテーマを決め職員が資料を作成し、ディスカッションを行いスキルアップの機会をつくっている。また、資格取得していない職員に実務者研修を受講してもらっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北区管理者連絡会議はアンケート形式で開催している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(よしお館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居宅などからの情報やご家族からの情報を収集し、早めに生活環境に慣れていただく対応を心掛けている。また、本人に耳を傾ける関係づくりについては時間について課題は残る		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	居宅や施設、ご家族などと面談や電話などで関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅や施設、ご家族などと面談や電話など情報を収集し、他のサービス利用を検討しているケースもある		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事やお手伝いなど役割づくりを行っているが、暮らしを共にする者同士としての関係に課題が残る		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス影響の中でも、ターミナルの時など感染対策を行いながら、最期まで面会を行うなど共に支える関係に努めた		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス影響の中でも、窓越し面会、LINE、Zoomなど環境を整備して対応している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を把握し、座る座席、入居者との会話など孤立しない対応に心掛けている。その他、体操、レクなども行っている		

グループホームもえれのお家 屯田

自己評価	外部評価	項目	自己評価(よしお館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後に菓子折りを持参されるご家族はいるが、関係性継続のフォローは行っていない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を伺いご家族と相談出来る限り本人本位の支援が行えるよう努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報、入所時、本人からの聞き取りを行い内容をファイルし職員同士情報を共有し現状の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースで過ごして頂いています。日々の観察で変化がないか現状の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となりご家族、職員、主治医などの意見をいただき介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、申し送り時に情報の共有、気付いたことや工夫は都度話し合い実践に努めているが実践の結果の把握が十分とは言えない		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調面を考慮して食事提供方法や排せつ状況に応じ対応を柔軟に変更して対応している。また、入居者・職員のストレス緩和のため、入浴者は一人で行う概念を脱却し、拒否がある入居者に対し2人介助で対応など取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で外出は控えているため買い物はできていない。2ヶ月に1度のペースで訪問カットを利用している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療の主治医以外に神経内科の通院や整形外科などニーズに応じた医療支援を行うよう努めている		

グループホームもえれのお家 屯田

自己評価	外部評価	項目	自己評価(よしお館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の関わりの中で気づいたこと、体調の変化など状況を報告しアドバイスや可能な処置をお願いしている。主治医への相談事も迅速に伝えていただき指示を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合に迅速な情報提供と入院時に不足していれば衣料品など届けている。訪問診療医とは何かあれば相談できる関係性である		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応に係る指針を取り交わし、看取りに関する意向の確認を行っている。また、入居後、体調変化があれば再度看取りの意向を再確認を行いチームで支援に取り組めるよう努めている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていない。緊急時の対応マニュアルや緊急連絡網など職員の不安が軽減出来るよう努めているが、実践力に関して救急講習など受講して身に付けていきたい		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内の方々が参加する避難訓練は行っていないが勉強会で災害時の対応や事業所内での昼間、夜間を想定した避難訓練を行い不安が軽減出来るよう努めている。しかし、水害や感染症対策の強化が課題		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損なわない声掛けなど気を付けるよう心掛けている。今後も職員間で声掛けについて再確認していくよう努める		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来る声掛けを心掛けている。言葉で伝えられない方は態度や表情、ご家族からの意向確認など利用者の希望にそえるよう努める		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ本人の希望に柔軟に対応できるよう努めているが職員都合になってしまうことがある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度のペースで訪問カットを利用している。日々の身だしなみは本人の自由に行っていただいている。夏、冬の衣類の調整は職員が行う		

グループホームもえれのお家 屯田

自己評価	外部評価	項目	自己評価(よしお館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや食器洗いや食器拭きなど一緒に行っている。定期的に出前など食事の時間を楽しんでいただける努めている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に状態に合わせて食事量、形態を検討し摂取方法を検討している。食事量、水分量は毎食確認し、必要時には補食で対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は行っていないが、洗口液、歯間ブラシ、歯ブラシを使用して口腔ケアを行う。また、義歯の洗浄も行うその他、訪問歯科診療よりアドバイスを受け対応している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	車椅子使用の方でも移乗動作など生活リハビリと考えトイレ対応を行っている。頻回にトイレへ行く方でも都度対応を行う		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医に相談しながら下剤の調整を行っている。その他、乳製品、高発酵性の水溶性食物繊維の提供など個別に応じた支援を行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴が出来るよう努めている。入浴日は職員が調整しているが、促しに気が進まない様子がある時は日を改めたり時間を変えるなど、本人の希望に合わせた対応を心がけている。また羞恥心に配慮し同性介助での対応している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に入眠状況を確認している。日中も疲労に合わせて臥床を促したり、本人の希望での休息が取れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の症状の変化などに注意して努めているが、内服している薬の効果、副作用などについて理解が不十分なことがみられる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	折り紙、塗り絵、食器拭きや掃除などそれぞれ得意をされることを提供しよう努めている		

グループホームもえれのお家 屯田

自己評価	外部評価	項目	自己評価(よしお館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出できない状況であるが、桜見ドライブや玄関のお花などを見に行くなどできる範囲で行っている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1名お金を所持される方がおり、ご家族と面談し確認した所、今までの生活の経緯があるため、所持しないよう希望され現在に至っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ電話されたり、手紙を書かれたりされることがあり対応している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は強い衝撃を緩和するクッションフロアの使用、対面キッチン、電球色のライトや木を基調とし温かみを出し、見晴らしの良い大きな窓を使用。その他、季節感を出すため、季節の飾り物や花を飾っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの座席やソファの配置など入居者同士の相性などに配慮した対応に努めている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた馴染みの家具や仏壇、また、ご家族の写真などを飾っている。その他、居室内の動線に危険がないかよう対応している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に名札、トイレ表示や場合によりスポットライトを当て場所の認識を行うなど自立した生活が送れるように努めている		

目標達成計画

事業所名 グループホームもえれのお家屯田

作成日：令和 3年 11月 5日

市町村受理日：令和 3年 11月 9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	現在の運営推進会議の内容が、主に事業所の現状報告が中心となっている。	事業所の現状報告とは別に議題(テーマ)を設定し、運営推進会議がより有意義なものとなるよう取り組んでいきたい。	ご家族や地域役員に運営推進会議で取り上げて欲しい議題についてアンケートを用いてご意見を伺い開催ごとに議題に沿った情報資料の送付を行う。	1年
2	35	水害や地震を想定した具体的な避難訓練の実施が出来ていない。	具体的な避難の方法の確認、実際の場面でイメージしやすい避難訓練を行う。	実際の避難ルートでの移動を含む避難訓練の実施をし記録に残し災害時に役立てるようにする。	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。